

7 外国語（英語）

☆必要な支援は何か？

言語活動においては、どのような支援があれば課題を遂行できるかなどを考慮し、生徒に必要な配慮を行います。例えば話す速度を落としたり、対話の例として教師がやり取りを見せたり、書く活動の前にアウトラインを書かせたりなど、支援は生徒の学習過程のあらゆる段階で与えることが可能です。

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」など、科目の段階が上がるにつれて、生徒が自律的な学習者となるよう、支援の程度を調整します。特に初期段階においては、中学校における学習との接続に留意し、高等学校における学習に円滑に移行できるよう、様々な配慮をしましょう。

☆5領域の指導と評価

外国語科の目標は、
聞くこと(L)、
読むこと(R)、
話すこと[やり取り](SI)、
話すこと[発表](SP)、
書くこと(W)

の5領域別に設定されており、評価も5領域別に行います。

L、Rについてはペーパーテストで評価することができますが、SI、SP、Wの評価についてはパフォーマンステストの実施が不可欠です。年間でバランスよく指導と評価ができるよう、効果的な計画作成を心掛けましょう。（右ページ参照）

「言語活動を通して」資質・能力を育成

外国語科の目標は、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」つまり、実際に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を通して、資質・能力を育成することが求められています。

では、英語を「聞く／読む」とはどういうことでしょうか。単に英語を日本語に置き換えるだけでは、必ずしも「英語を聞いて／読んでいる」とは言えません。同様に、英語を「話す／書く」とは、単に英語を書いたり英語が口から出てくることではなく、「英語を使ってメッセージを伝える」ことです。言語形式だけに目を向けるのではなく、適切な支援を行った上で、英語を使って内容を理解したりメッセージを伝え合ったりする活動＝言語活動を授業内で効果的に実施するようにしましょう。

コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて

外国語における「知識及び技能」の育成は、「外国語の音声や語彙、文法、言語の働きなどの理解を深める」という「知識」の面と、その知識を「実際のコミュニケーションの目的・場面・状況に応じて適切に活用できる」という「技能」の面とで構成されています。また「思考力、判断力、表現力等」の育成のためには、知識・技能を活用して、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて、「概要や要点、意図などを的確に理解」し、「適切に表現したり伝え合ったりする」ことができる力を養う必要があります。

文法など言語材料の指導に当たっては、「コミュニケーションを支えるもの」であることを踏まえ、単に英語を日本語に置き換えさせるなど、文脈から切り離された知識として理解させるのではなく、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう指導することが必要です。実際の指導においては、実際のコミュニケーションにおけるその文法事項の活用の必然性に生徒が気付くような指導を行うようにしましょう。

目標（CAN-DO）から始まる授業づくり ～授業の“Backward Design”～

CAN-DOリスト

学年	聞くこと	読むこと	話すこと (発表・やり取り)	書くこと
1年	はっきりと話されれば、まとまった説明を聞いて、その概要やキーワードを聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたまとまった英文を読んで、その概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表) 知っている単語や簡単な文で、身延なことから始めて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り) 身延な文について、簡単な英語でやり取りすることができる。	身延なことから始めて、その概要や要点をまとまった英文で書くことができる。
2年	はっきりと話されれば、まとまった説明やある程度継続する会話を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたやや長めの英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表) メモを見ながらであれば、身延な文について、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り) 身延な文について、簡単な英語でやり取りすることができる。	身延な文について、自分の意見をまとまった英文で書くことができる。
3年	さまざまな場面で話される英語を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	さまざまなジャンルのまとまった英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表) あるテーマについて、自分の意見をまとまった英文で書くことができる。 (やり取り) あるテーマについて、簡単な英語で意見交換を続けることができる。	

※各学校で設定します。必要に応じて見直しましょう。

CAN-DO（学習到達目標）

単元の目標 ※5領域別

5領域に関わる言語活動・教材・テスト

- ・CAN-DOが透けて見えるタスク、練習（目的・ゴールの明確化）
- ・それぞれの技能に寄与する語彙、文法の指導（理解/表現のための言語知識）

「単元の指導と評価の計画」作成の考え方

年間のCAN-DO（学習到達目標）

①単元目標は、「**年間のCAN-DOが具現化したもの**」になります。つまり、フォーカスしたスキル（**一つか二つ**）を意識して、5領域別に設定する必要があります。

① 単元目標

職業選択について意見を書くことができる (SI)

② ゴールタスク

ALTと話しましょう

③ 単元の授業

リスニング
スピーキング
ライティング
+やり取り指導

①単元のテキストタイプやジャンル・トピックに応じて、**その単元でフォーカスするスキル**を決めます。1単元に**一つか二つ**のスキルでもOKですが、年間でバランスよく育成できるようにしましょう。

職業選択について意見を書くことができる (SI)

リスニング
リーディング
スピーキング
ライティング
+意見文指導

おすすめのレストランを発表することができる (SP)

留学生に、あなたの街のおすすめのレストランを紹介しましょう

リスニング
リーディング
スピーキング
ライティング
+発表指導

Eメールを読んで理解することができる (R)

Eメールを読んで必要事項を表現し、まとめましょう

リスニング
リーディング
スピーキング
ライティング
+メール表現指導

②ゴールタスクとは、**単元の目標が達成できたかどうかを評価するための具体的なツール**です。生徒の思考・判断・表現を評価するためのカギとなるのは、目的・場面・状況の設定です。実際のコミュニケーションを意識したタスクを実施しましょう。

③単元の授業では、教科書本文を使用した4技能5領域の指導を、バランスよく行います。**教科書本文は4技能5領域の育成のために活用し、単元目標に基づくゴールタスクで確認する**、つまり教科書で練習して、応用力の腕試しをさせるという流れにしなければなりません。

読解理解指導